つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
IP-phone
050-3318-1809
URL
http://turusaki2.web.fc2.com/

平成26年神幸祭

ご朱印ガール

「御朱印をお願いします。」と朱印帳を差し出す参拝者が近年増加しています。

十年程前までは、朱印の依頼は年に二、三件ほどでしたが、最近では土日、平日を問わず要望が多くなっています。

近年のパワースポットブームで神社へお参りする女子が増えて、そこで出会った朱印帳が普段手書きをする事が少なくなった若い世代には、「墨筆手書き」は却って新鮮に映るようです。

インターネットではご朱印やご朱印帳の情報が交換されていて、ご朱印を収集する女子を「ご朱印ガール」と呼ぶまでになっています。

朱印の魅力は神社によって千差万別の筆使いや、後で戴いた朱印を見返して訪れた時の光景を思い出すのが面白いのだそうです。

当社では「ご朱印ガール」のみならず老若男女様々な人が、朱印を求めて参拝されますが、森厳な神社の空気に触れて、心を静める場にもなっている事が参拝者の声からも聞かれます。

安原伝兵衛物語

4

錦織弥太夫の残した夢は破れたけれど、伝兵衛は馬子の仕事に熱心だった。喰い詰めて馬子になり、毎日惰性で働いてる先輩は伝兵衛が何となく疎ましい。何かにつけて嫌がらせをされた。親方は馬子たちにやめられるのが怖くて知らぬ顔をする。親方は頼りにならない上に吝嗇家だ。この馬宿に居続けても救いがない。弥太夫の言った「いつか機会があるけんね」を思い出す昨今だ。

こんな時、備前岡山城に戦雲が重く垂れこめた。城下町に不穏な空気が流れだした。天正十年（一五八三）四月、織田信長から中国攻めを命ぜられた羽柴秀吉が、備前岡山城に入った。岡山城から僅か三里先の、毛利方の備中高松城を攻略する指揮をとるためだ。

この城の城主清水宗治は実に毛利氏への忠誠心が厚く、秀吉の得意とする調略がことごとく失敗した。毛利方はそんな清水宗治を見捨てる筈もなく、四万の大軍を動員した。この状況では力攻めは大きな出血を覚悟しなければならない。秀吉が考案した作戦は高松城を人工湖に沈めてしまうという奇想天外なものだった。

伝兵衛はこの情報を岡山城下で野菜売りをしている百姓女から得た。作戦がどうのこうのには全く関心がない。伝兵衛が驚いたのは人工湖を作る堤のための土俵をいくらでも買い取るという噂だ。

「一俵を百文だか二百文、それに米一升をつけて買い上げると言いんさったよ。でも私はそんなことはなかろうと思う」と百姓女が言う。

女の言うことだからどこまでが本当なのか判らない。でも確かめてみたい気持ちが強くて伝兵衛は馬を曳いて備中高松城へ向かった。

街道は羽柴氏の軍兵が群がっていた。時折騎馬武者が追い越して行く。伝兵衛はその度に脇道や水田に避難した。何度か引き返そうかと迷ったけど好奇心がまさった。ある村の雑木林が続く山麓まで辿り着くと、村の百姓が総出で土俵作りをしていた。作った俵が山のように積み上げてある。（野菜売りの女が喋った事は本当じゃ）感心している場合じゃない。早く引き返さないとえらい事になる。

（親方の大目玉じゃ）と、気付いた時、「若い馬子さんや、空荷で帰ることはなかろう。土俵作りはかどるけど、運べんで困っとるけんなあ、その馬で運んでつかあさい。一俵の運賃二十文でどげんね？」伝兵衛、それを聞いて目を丸くした。（こねえな機会は滅多にあるもんでねえ）即座に商談は成立した。相手はこの村の庄屋で名は吉兵衛といった。村の衆はすべて吉兵衛の指示で動いている。この人なら信用してもいいなと考え、土俵運びに集中した。

「伝兵衛さんと言いんさったのう。ようがんばってくれたなあ。ほんまにたすかったぞ。その調子で明日もがんばってつかあさい。何んと早島から来んさったかね。今夜は家で泊まってくれりゃいい」

古兵衛はとても親切で思いやりのある男だった。そしてなかなか智恵者だ。他の村人は個人がめいめい勝手に動いていた。吉兵衛の村では堰堤の工事にも人を回して、他村より早く受け付てもらえる工夫をしていた。そんな吉兵衛の人柄を見込んで、抱えこんだ悩みを打ち明けた。

「そねいな事情とは知らず悪い事をしたね。でもね伝兵衛さんや、今帰っても、もっと稼いで遅れて戻っても叱られるのは同じだけんな。銭をようけ持って帰る方がよかろう。遅くなった言い訳は、羽柴の侍に無理やり働かされちょったと言いんさったらいい」

吉兵衛さんに相談してよかったと思う。悩みをさっと拭いとってくれた。まだまだ未熟で世間知らずの伝兵衛は、すっかり吉兵衛を頼り、家族のこと、錦織弥太夫からもらった夢まで、問われるまま話した。吉兵衛は世間擦れしていない無邪気な伝兵衛が可愛い。

二人はまるで親子のように、家と工事現場を往復した。このままずっと働けたらどんなに良いかと伝兵衛は思った。先輩にいじめられ、親方には容赦なく扱き使われた日々とはえらい違いだった。

当初は誰も信じなかった巨大な堰堤が完成間近になった。全長一里程の人工湖の堤が、備中高松城を包み込んだ。やがて足守川の水が流され、城が水没する時が来るのは夢ではなくなった。

羽柴秀吉がこの工事に使った費用は、銅銭六十三万五千貫、米三千五百石と言われている。

土俵作りも終了する日が近づいた。吉兵衛が伝兵衛に名残惜しげに帰郷を勧めた。

「あねえに立派な堰堤ができ上がったけん、もうすぐ合戦の修羅場が始まるぞ。お前さんは戻りんさい。それから稼いだ銭は親方に渡すと言いんさったが、それでは何にもならん、分け前なぞもらえるもんかね。一番ええのはここから石見に出発することじゃろうな。それでは家族がひでえ目にあうじゃろう。大きく稼せいだんじゃけん、家族の暮らしのこと、石見への路銀を残したあとを親方に渡せばええ、そりゃ二、三発叩かれるじゃろう。しかし夢がかなうならそれでええじゃろう」

吉兵衛さんの言う通りだと思った。こんな世智（せち）に長けた人にめぐり会えたことで伝兵衛の運命が変わって行った。

神道Q&A

【質問】

ネギ・ニラ・ニンニクなど臭気の強い野菜は神様にお供えしてはいけないのでしょうか。

【答え】

仏教には「不許葷酒入山門（葷酒山門〈寺院〉に入るを許さず）」という言葉があり、よく寺院の前の戒壇石にこの言葉が彫られています。

飲酒はもとより仏教の戒律によって禁じられていますが、葷（くん）（ネギ・ニラ・ニンニクなど臭気のある野菜）は食べることにより臭気を発するため不浄とされ、また精力のつくものであるため、修行の妨げになると出家者（僧侶）の間での飲食や、寺院への持ち込みが禁じられました。

こうした影響を受けて、神社でも臭気のある野菜をお供えすることを遠慮するという考え方が広まったものと思われます。

しかし葷とは広く鳥獣魚肉を含むとの解釈もあり、鳥獣などの殺生を禁じたものであるとも考えることができます。

一方、神道の考え方からは、特別な事例を除き、特に禁忌となる食物があるとは思われません。

神道では万物の生成発展は神々のお力によるものであるとの考えがあり、私たちが必要とする全ての食物もそのお蔭によるものですので、感謝の気持ちによりこうした食物を神前にお供えすることは当然のことであるからです。

お酒や魚、鶏肉などもよく神饌としてお供えされますし、初物などで、ぜひとも神様に召し上がって戴きたいとの気持ちがあれば、葷菜類もお供えして差し支えないのではないでしょうか。

特に生産地では、収穫を奉告し感謝の祭りをとりおこなうにあたって生産物を供えるのは普通のことであり、葷菜類の産地であればそれを供えることは当然と考えられます。

しかし、祭典でのお供えですので、清浄さを欠くと感じられる時はやはり遠慮したいものです。

い草のジャンボ干支

今年の正月は、今回で二回目となるい草で作ったヒツジが境内にお目見えして、参拝者の目を楽しませました。

文化財防火デーに合わせ境内で 消防訓練

一月三十一日午前十時から境内に於いて消防訓練が行われた。

この訓練は昭和二十四年一月二十六日に現存する世界最古の木造建造物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損したことを契機として、毎年一月二十六日を文化財防火デーと定めて、全国的に文化財に対する防火意識を高めるために全国で行われている。

この日は、倉敷消防署と早島町消防団が合同で、消防車二台、指揮車一台、救急車一台による本格的な訓練となった。

訓練は、拝殿から出火したとの想定で、拝殿東で発煙筒が焚かれ火災に気が付いた神社職員が消防署への通報で始まり、消火器を使っての初期消火、間もなく神社正面と東入口へ二台の消防車が到着し、境内にホースが延ばされた。

指揮官の合図で神社の杜に向けて一斉放水、鎮火の合図と共に逃げ遅れた人の捜索開始。

拝殿前で負傷者を発見し、救助、直ちに救急車で搬送と本番さながらの手際の良さで約一時間に亘る訓練を無事終えた。

この訓練を契機に文化財の保護の機運が高まり、防火手順の確認をする事ができた。

総代の就任

左記の地区の総代さんが四月一日付けで就任されました。

記

市場	早高北	高須賀	帯高
寺山　俊雄 早島町早島八九九	佐藤　豊行 倉敷市早高六〇〇ー四	八木　二郎 倉敷市高須賀三五ー九	古家野　茂基 倉敷市帯高八二六

祭事暦

五月十六日（土）［午後七時］
八幡神社春季大祭
（露店あり）

五月十七日（日）［午前十時］
鶴崎神社春季大祭
【供膳祭】

七月三十日（木）［午後五時］
夏越祭【輪くぐり祭】
（露店あり）

毎月一日（午前九時）月次祭

諸祈祷・出張祭の案内

◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・当病平癒その他
◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・宅神祭・神葬祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

祈祷／出張祭は
予約
をお願いします。